

〈小学校低学年部門〉

知事賞

【題名】 ずつといつしよだよ
【学校・学年】 鳥取市立福部未来学園二学年
【氏名】 本田 衣理奈

あたしは、
大スキです。この本は、わたしがほいくえん
のころ、おかあさんがよく読みかかせて
くれました。おかあさんは、この本を
わたしといもうとをぎ、とだきしめ
たくなるとよく言っていました。わたしもこの本を
読むとバがまたたかくなります。
ちようき休みのまいだ、この本をひさしぶ
りに、じふんで読んでみました。すると、ほ
いくえんのじきに読んでいたときの気もちと
おこしちがっていました。ほいくえんのと
きは、あがさんが読んでぎ、としてく
れしい気もちがいっぱいでした。でも二
年生になつて読んでみると、三つちがいの
うたのこともかたかえらうになりました。
いもうとはげん気いっぱいで、いたず
らをよくします。こあがりなところもあ
ります。いじめるなことをして、あたし
とよくけんか
をします。いもうとは、この本に出
てくるど
うぶつの子
どもみ
たりです。

いもうとがけん気い。はい。のとき、わたし
もうれしいです。きどカンガルーのおりあ
さんもおなじ気もちです。いもづとはごあが
りです。ぐらいいところへいくときは、いつも
あだしをよびます。そのときは、みみずくの
おかあさんのように、いもうとをまもってあ
げたくになります。うさぎのおかあさんみたい
に、
「手をつなごう。だいじょうぶ。ここにいろ
から。」

と、いいたくなります。
いもうとは、いたがらなしたり、イライラ
していいわるなこともします。そういうとき、
あだしはいつもかなしい気もちになります。
どうしてそういうことをするのかわからな
いからです。でも、この本をよんで、いたが
らするときは、いたがらだ。であかっとして
いるのかもと思うようになります。だから
あだしは、いもうとがいたがらをするとき、
いもうとをよく見ることにしました。すると、

まわりを見ながらいたずらをしていふことに
気がつきました。やっぱりいたずらだ。て
あかして、しているのかもと思ひます。あし
やくしゃしてゐるときは、どかげのおかあさ
んみたいにしてばらぐま。てあげる。だんだ
んきげんがなおります。わたしはこの本を讀
おと、あかあさんになつた気分になります。
わたしは、いもうどが大すきです。いもう
どがうれしいとわたしもうれしいです。いも
うどがかなしいとわたしもかなしいです。きつ

どこの本に出でくるおかあさやおとうさんは
みんなおなじ気もちです。そして、あたしの
あかあさんやおとうさんもおなじ気もちだと
思ひます。だから、この本を讀むと、心があ
たたかくなつて、ぎやうとしたくなるんだと
思ひます。わたしは、いもうどをぎやうとし
ました。すると、いもうどもぎやうとしてく
れました。『す』といつしよだよ。大すきだ
よ。どつたえたくなる本だから、やっぱりこ
の本が大すきです。